

1 学年 生徒、保護者の皆様

厚木北高等学校長

令和7年度 第2回「生徒による授業アンケート」について（報告）

本校の教育活動につきましては、日頃よりご理解、ご協力をいただき厚くお礼申し上げます。

さて、このたび令和7年7月に第1回の「生徒による授業アンケート」を実施いたしました。第1回の結果を踏まえ、授業改善への手立てを検討し、各教科で授業の質の向上に取り組んでおります。

つきましては、各教科のアンケート集計分析結果及び授業改善への取組の概要をご覧いただき、ご質問やご意見などがありましたら、ご連絡くださるようお願いいたします。

1. 集計対象の科目（一部略称あり）

教 科 名	科 目 名		教 科 名	科 目 名	
国 語	現代の国語	言語文化	芸 術	音楽Ⅰ*3	書道Ⅰ*3
地歴公民	公共	歴史総合*2	外 国 語	英語コミュニケーションⅠ*4	論理・表現Ⅰ
数 学	数学Ⅰ*4	数学A*2*4	家 庭		
理 科	生物基礎	物理基礎*2	情 報	情報Ⅰ*1	
保健体育	体育*1	体育*2			
	スポーツ概論*1	スポーツ総合演習*1			

\*1 スポーツ科学科のみの科目 \*2 普通科のみの科目 \*3 選択科目 \*4 習熟度別授業を展開している科目

2. 質問及び選択肢の一覧

分類	質問		略称
授業のあり方	1	教材が工夫されるなどして、取り組みやすく、生徒の理解度に合わせた授業が進められている。	理解度
	2	毎回の授業の最初に、ねらいを確認したり、授業の終わりに学習したことを振り返ったりする機会がある。	ねらい・ふりかえり
	3	授業の中で、友人と話したり、文章を読むことなどをおして、自分の考えを広げ深める機会がある。	思考の機会
	4	授業の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考えたりする場面がある。	まとめ・解決の機会
学習の状況	5	先生・友達に聞いたり、自分で調べたりするなど、授業に対して意欲的に取り組んでいる。	意欲的態度
	6	予習、復習をしっかりとっている。	予習・復習
	7	授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。	成長実感
	8	授業の中で他の人の考えを聞いたり読んだりして、自分の考えを広げ深めることができた。	思考の実践
	9	授業で学んだことに対する自分の考えを書いたり、新しい問題を解決する方法を考えたりすることができた。	まとめ・解決の実践
	10	授業で新たに学んだことを、これまで学んでいたことに、結び付けて理解することができた。	既習事項とのかかわり
	11	家庭学習を習慣化している。	家庭学習

否定的 1 ほとんどあてはまらない 2 あまりあてはまらない 3 ほぼあてはまる 4 かなりあてはまる 肯定的

問合せ先  
副校長 吉垣 武  
電話 046-241-8001

### 3. 各教科の回答割合（一覧）

	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11
	理解度	ねらい・ふりかえり	思考の機会	まとめ・解決の機会	意欲的態度	予習・復習	成長実感	思考の実践	まとめ・解決の実践	既習事項とのかわり	家庭学習
1	1%	2%	2%	1%	3%	14%	4%	3%	3%	2%	22%
2	7%	11%	9%	11%	14%	34%	16%	13%	17%	17%	32%
3	46%	49%	45%	56%	49%	36%	57%	58%	57%	59%	34%
4	47%	39%	44%	33%	34%	16%	23%	27%	24%	22%	12%
－	7%	12%	11%	11%	16%	48%	20%	16%	20%	19%	54%
＋	93%	88%	89%	89%	84%	52%	80%	84%	80%	81%	46%
1	0%	1%	1%	0%	0%	12%	1%	1%	2%	2%	23%
2	4%	7%	10%	10%	13%	31%	16%	14%	14%	15%	27%
3	54%	52%	52%	53%	54%	40%	56%	56%	57%	57%	36%
4	42%	40%	38%	37%	33%	17%	27%	29%	28%	26%	14%
－	4%	8%	10%	11%	13%	43%	17%	15%	15%	16%	50%
＋	96%	92%	90%	89%	87%	57%	83%	85%	85%	84%	50%
1	2%	1%	1%	1%	1%	10%	1%	2%	1%	2%	19%
2	6%	11%	12%	11%	11%	32%	11%	13%	15%	13%	30%
3	55%	56%	56%	56%	55%	40%	57%	59%	56%	58%	35%
4	37%	32%	31%	32%	33%	18%	30%	26%	28%	27%	16%
－	8%	12%	13%	12%	12%	42%	13%	15%	17%	15%	48%
＋	92%	88%	87%	88%	88%	58%	87%	85%	83%	85%	52%
1	1%	1%	1%	0%	1%	13%	2%	2%	2%	2%	22%
2	9%	8%	14%	12%	14%	33%	13%	17%	17%	14%	32%
3	55%	55%	55%	59%	58%	38%	58%	58%	58%	61%	34%
4	34%	36%	31%	28%	27%	15%	26%	24%	23%	23%	11%
－	10%	8%	15%	13%	15%	47%	16%	18%	19%	16%	54%
＋	90%	92%	85%	88%	85%	53%	84%	82%	81%	84%	46%
1	1%	1%	3%	2%	2%	16%	1%	3%	2%	2%	30%
2	6%	8%	9%	8%	9%	30%	9%	12%	12%	13%	27%
3	50%	49%	50%	49%	50%	36%	51%	53%	52%	52%	29%
4	43%	42%	39%	41%	38%	19%	39%	32%	33%	32%	16%
－	7%	9%	11%	10%	11%	45%	10%	15%	14%	15%	56%
＋	93%	91%	89%	90%	89%	55%	90%	85%	86%	85%	44%
1	4%	3%	4%	4%	3%	22%	3%	6%	3%	4%	38%
2	11%	13%	14%	15%	14%	30%	17%	14%	18%	16%	28%
3	53%	47%	52%	54%	58%	34%	53%	56%	54%	58%	25%
4	32%	36%	30%	27%	25%	14%	26%	25%	24%	23%	14%
－	15%	16%	18%	19%	17%	52%	20%	20%	22%	20%	61%
＋	85%	84%	82%	81%	83%	48%	80%	80%	78%	80%	39%
1	0%	1%	0%	1%	1%	16%	1%	1%	1%	1%	24%
2	5%	7%	6%	9%	9%	26%	10%	12%	11%	10%	28%
3	50%	51%	50%	52%	48%	37%	56%	54%	55%	56%	33%
4	45%	41%	44%	39%	42%	21%	33%	34%	33%	32%	15%
－	5%	7%	6%	10%	10%	42%	11%	12%	12%	11%	52%
＋	95%	93%	94%	90%	90%	58%	89%	88%	88%	89%	48%
1											
2											
3											
4											
－	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
＋	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%	0%
1	0%	0%	6%	0%	3%	27%	0%	6%	3%	0%	36%
2	9%	12%	15%	6%	6%	30%	3%	18%	15%	12%	30%
3	39%	36%	39%	45%	48%	36%	48%	42%	48%	52%	27%
4	52%	52%	39%	48%	42%	6%	48%	33%	33%	36%	6%
－	9%	12%	21%	6%	9%	58%	3%	24%	18%	12%	67%
＋	91%	88%	79%	94%	91%	42%	97%	76%	82%	88%	33%

#### 4. 各教科の集計分析及び授業改善案

教科	集計分析	授業改善
国語	現代の国語・言語文化ともに、思考の機会の項目については、肯定的な回答が多く、ICTを活用しつつ、他者と協働しながら学習に取り組むことの効果が出ていると考えられる。一方で、予習・復習や家庭学習については、否定的な回答が多く、基準値程度の評価となっている。そのため、ICTを活用しながら、生徒が主体的な学習態度になることを促進し、自身の課題を発見しながら、家庭学習に取り組むことができるような課題を設定することなどが必要になっていくと考えられる。	授業における、国語に関する知識・技能のインプットの機会だけではなく、ICTを活用し、自身の考えや意見を他者と共有することでアウトプットする機会を授業に取り組み、生徒一人ひとりが主体的に学習に取り組む態度を育ていけるような授業構成の設定を図っていく。クイズレットを活用し、授業内容を復習することができる課題などを設定することで、家庭学習の習慣化を図っていく。
地歴公民	第1回同様、地歴公民ともに、「予習・復習をしている。」「家庭学習を習慣化している。」の項目が否定的回答が多かった。また、それ以外の項目については比較的肯定的回答が多く、特に「授業のあり方について」の4項目が1学期よりも高評価を得ている。	生徒が主体的に学習に取り組めるように、身近な題材を選び、発問や単元設定を工夫を継続する。 また、家庭学習についてはICT利用を含め、生徒自身が常に学べる環境づくりを行いながら、探究的な活動を促し支援していく。
数学	「理解度」や「ねらい・ふりかえり」等、多くの項目については1学期から引き続き多くの肯定的回答が得られたことから、授業に真剣に取り組んでいると考える。しかし、「予習・復習」や「家庭学習」の項目については他の項目に比べて引き続き肯定的回答が少ない。家庭学習の習慣が定着しきれていないと考える。来年度に向けて引き続き課題に取り組みたい。	1学期と比較して2学期は自宅学習用の課題の配付や小テストの複数回にわたる実施等、授業改善にかかわる取り組みを実施することができた。引き続き、課題の配付や小テストの実施を通して生徒一人ひとりに対するきめ細やかな指導につなげたい。
理科	第一回と同様に授業のあり方については概ね肯定的回答を得ている。また、授業人数が少人数であるほどその傾向が高くなっていることも同様である。生徒も、授業内での基礎的な知識や技能の定着については、一定の成果を実感している。 一方、どの科目も学習状況に関して「予習・復習」や「家庭学習」は例年と同様に肯定的な回答が低い。第一回と同様に教科の特性として毎回の授業に対して予習を求めおらず、授業内での理解に重きを置いていることから、家庭学習の時間は少なくなっていると思われる。	授業内での基礎的な知識の定着を踏まえて、家庭でも取り組みやすい課題の設定を工夫する。また、学習内容により興味の湧くような課題を与え、発表やレポート、小テストなどを通じて学習習慣を定着させる。更に、普段の生活や他教科の学習と関連付けて授業を展開し、横断的に科学知識や様々な自然現象に関心を持てるような指導を工夫していきたい。また、そのように自然現象と科学と人との関わりへ関心を持つことが、理科における「予習・復習」であり「家庭学習」となることを周知したい。
保健体育	第1回と比較すると、多くの項目で肯定的な回答が若干であるが、多い結果が多かった。家庭学習や予習・復習の項目の面では基準値を超えているものの、課題が残る数値であった。 専門体育・体育といった実技科目では、理解度や成長実感が90%を超える回答であることは、とても肯定的に捉えることができる。その中でも専門体育(スポーツ科学科)は意欲的態度が97%であるのに対し、体育(普通科)では87%であり、課題を感じる結果であった。	第1回から継続して、いずれの種目に関しても振り返りシートを活用し、理解度やねらい・ふりかえり、思考の機会を増やすことを目指した。結果として肯定的な回答を得ることができたため、今後も継続していきたい。 保健では日常生活に結びついた気づきや思考を目的とした課題の提示を行うこと、保護者や身近な人とコミュニケーションをとることによって達成できる課題などを工夫したいと考えていたが、改善しきれなかった。 体育に関してもグループワークなど生徒自身が思考し、話し合い自身の意見を表現する機会の時間を多くすることで様々なプラスがあるように思う。
芸術	第1回目のときよりも、肯定的回答が増えた。特に「ねらい・ふりかえり」「意欲的態度」の項目は肯定的回答が多い。否定的回答が多いのは、「予習・復習」、「家庭学習」の項目である。	学んだことを生活の中で身近なものに関連づけて考えることができるよう、題材や授業内での問いの設定を工夫し、学習内容が深まるよう取り組みたい。また、生徒が自身の成長を実感し、学習の動機が高められるよう、目標を明確にし取り組みやすい授業づくりに引き続き取り組んでいきたい。

外国語	「教材が工夫されるなどして、取り組みやすく、生徒の理解度に合わせた授業が進められている」が肯定的解答が多く、生徒の習熟度に合わせた授業が行われていることがうかがえる。その一方で、「予習・復習をしっかりとしている」という質問に対しては否定的回答が半数を超えている。このことから授業の中においても家庭学習の習慣を付け、生徒が自発的に学習に取り組めるよう、取り組んでいく必要がある。	自発的に英語学習に取り組めるようにするため、授業内で家庭学習を行えるような声掛けを行うことや授業で生徒が楽しいと思えるようなアクティビティを行うことで英語に対しての抵抗を下げる工夫が必要である。
情報	「授業のあり方について」では、概ね90%の生徒から肯定的な回答が得られた。実習の内容では1学期の文書作成中心から、2学期の表計算ソフト中心に変わっており、取り組みやすさを感じる生徒が減るのではとの予測もあったが、1学期とほとんど同じ結果であった。	「理解度に合わせた授業」では肯定的回答率は91%程度であるが生徒が課題に取り組み、完成させるまでの時間には個人差があり、ペース配分やリズムなど、より丁寧な授業を心がけていく必要がある。3学期は、個人で調べて発表するという授業形態であり、そこで話し合いや発表する機会も改善されると思われる。

※紙面の都合上、質問内容については〈略称〉を用いて表記しています。

分類	質問	略称
授業のあり方	1 教材が工夫されるなどして、取り組みやすく、生徒の理解度に合わせた授業が進められている。	理解度
	2 毎回の授業の最初に、ねらいを確認したり、授業の終わりに学習したことを振り返ったりする機会がある。	ねらい・ふりかえり
	3 授業の中で、友人と話したり、文章を読むことなどをおして、自分の考えを広げ深める機会がある。	思考の機会
	4 授業の中で、課題について自分の考えをまとめたり、解決方法について考えたりする場面がある。	まとめ・解決の機会
学習の状況	5 先生・友達に聞いたり、自分で調べたりするなど、授業に対して意欲的に取り組んでいる。	意欲的態度
	6 予習、復習をしっかりとしている。	予習・復習
	7 授業の中で身に付いたことや、できるようになったことを実感することができた。	成長実感
	8 授業の中で他の人の考えを聞いたり読んだりして、自分の考えを広げ深めることができた。	思考の実践
	9 授業で学んだことに対する自分の考えを書いたり、新しい問題を解決する方法を考えたりすることができた。	まとめ・解決の実践
	10 授業で新たに学んだことを、これまで学んでいたことに、結び付けて理解することができた。	既習事項とのかかわり
	11 家庭学習を習慣化している。	家庭学習の習慣化